

「THE BIG ISSUE」を知っていますか？

ホームレスの人が販売者となり、売り上げの6割ほどがその人の収入になる仕組の雑誌「THE BIG ISSUE」。ホームレスは怠け者、と思ってる人も思っていない人も、ビッグイシューを知らない人も知ってても買う一歩が踏み出せない人も、魅力的なこの雑誌をとにかく一度読んで欲しい！そんな思いから出発したイベントです。

会場には若い音楽ファンはもちろん、ビッグイシューの販売者さんもいます、元野宿のおじいちゃんもいます、そういう人びとを支える活動を担ってきた人たちもいます。ぜひ一緒に音楽を楽しみ、一緒に考えましょう。あなたと一緒に明日を謳えたらこんなに嬉しいことはありません。



新人Hソケリッサ!：ダンスグループ。振付家アオキ裕キによる「生きること日々向き合う身体」を求め路上生活経験の参加者を集めた活動。2005年より開始。2017年～2018年、東京近郊13カ所に渡る「日々荒野」ツアーを開催。ユニコムノリタソーシャルデザインアワード2016、グランプリ受賞。

寺尾紗穂：2007年ピアノ弾き語りアルバム「御身」をリリース。映画の主題歌やCM製作のほか、新聞や雑誌、ウェブ連載も多い。2010年よりビッグイシューを応援するイベント「りんりんふえす」を主催。著書に「あのころのパラオを探して」(集英社)「彗星の孤独」(スタンドブックス)など。2018～2020年まで朝日新聞書評委員をつとめた2022年10月新アルバム「余白のメロディ」をリリース。

新人Hソケリッサ! w 寺尾紗穂



古き良きロック、フォークやカントリーなどを独自に解釈しストレンジなグッドミュージックを届けるシンガーソングライター、内村イタルを中心に結成されたバンド、ゆうらん船。今回は内村イタル(Vo/G)、伊藤里文 (Key)、永井秀和 (P)、砂井慧 (Dr)の4人編成。バンドメンバーの演奏が歌に寄り添いながらも優しさだけでなく、様々なグルーブが混ざり合うことによって、懐かしさもあり新しい、心地良いけど、どこかスリリングなバンドサウンドを聴かせる。「定期演奏会」と称した自主イベントを不定期開催。過去にはカナコアヤシ、折坂悠太、ラッキーオールドサン、mei ehara、古館佑太郎、東郷清丸、ミツメ等が出演。2枚のEP発売後、2019年にはFUJI ROCK FESTIVAL 19 (ROOKIE A GO-GO)に出演し、2020年6月に1st Album「MY GENERATION」をリリースした。各方面で好評を得たアルバムは「ミュージックマガジン」日本のロックアルバムベスト10や「Apple Vinegar Award」にノミネートされ、2021年のロードスターアワードに合わせ数量限定発売されたアナログ盤も数日で完売するほどの人気となった。2022年5月に待望の2nd Album「MY REVOLUTION」を発売。さらにアレンジの幅を広げた今作は、先行配信曲「Parachute」がJ-WAVE「SONAR TRAX」に選出されるなど大好評となり、リリースツアー-東京公演を東京キネマ倶楽部で行い満員で終えた。2022年9月にはTBSにて放送されたドラマ「階段下のゴッホ」に新曲「春」がオープニングテーマに起用された。

ゆうらん船



浜田真理子：シンガーソングライター。鳥根県出雲市生まれ。松江市在住。1998年暮れに1stアルバム「Mariko」をリリース。2018年は20周年記念イヤー。6月には久保田麻琴プロデュースで7thアルバム「Next Teardrop」11月には日本コロムビアから昭和歌謡の「Lounge Roses」をリリース。2019年11月自身が立ち上げたレーベル Camellia Recordsより5年ぶりのライブ盤「Mariko Hamada Live 2017・2019」vol.1をリリース。

Marino(sax)：宮古島出身。くらしき作樂大学 管打楽器専攻卒。2009年より関西地方のライブハウスを中心に研鑽を積む。2012年、宮古島を拠点に活動するFunk jam band Black Wax に加入。顔Myahk Records所属久保田麻琴プロデュースで4枚のアルバムをリリース。独特の訛りがある音楽性が、いとうせいこう、ピーターD、細野晴臣、梅津和時などから絶賛される。他、浜田真理子、福原美穂等 サポートメンバーとして活動中。

浜田真理子 w Marino



東京に住むシンガーソングライター。2013年に自主制作したep「四季」が話題を呼び、1stアルバム「アウトサイド」、2ndアルバム「告白」を発売。ドラマ「大豆田とわ子と三人の元夫」主題歌「Presence」をSTUTSと共作。2021年に3rdアルバム「RIGHT TIME」を発売し、「APPLE VINEGAR Music Award2022」の大賞を受賞した。ライブでは弾き語りを始めバンド、デュオなどさまざまな形態で活動中。トラックメイカーの荒井優作とのユニット・butasakuとしてもライブ&リリース中。

butaji



川村亘平齋：影絵師・音楽家。1980年、東京生まれ。インドネシア共和国・バリ島に2年間滞在し、影絵人形芝居【ワヤン・クリット】と伝統打楽器【ガムラン】を学ぶ。アジアを中心に世界各国で影絵と音楽のパフォーマンスを発表。日本各地でフィールドワークやワークショップを通じて、土地に残る物語を影絵作品として再生させる活動も高く評価されている。ガムランを使った音楽ユニット【滯空時間】主宰ほか、絵本や漫画の制作、CMへの楽曲提供など幅広く活動している。平成 28 年度第 27 回五島記念文化賞美術新人賞受賞。北海道庁主催「北の絵コンテ大賞」受賞。(2021)

【恵比寿映像祭】(14/東京都立写真美術館)【サントリー美術館影絵 WS】(14/六本木アートナイト)【バンド【cero】アートワーク】(15) 南相馬影絵【ヘビウヘビ】(15/福島県福島市)【春説昌福寺縁起】(16/山梨県巨摩郡)【オンガトンガ】(18/秋田県男鹿市)【イルシラ ナイ アイダニ】(18山形ビエンナーレ)絵本【おそねぎのみ】(18/タイチェンマイ)、シネマ歌舞伎「The DOGGY'S LOOK」影絵演出(19)【カベムコウニオニガイテ】(19/原美術館)【アソビバブル〜あの世の出入り口】(19/北海道白老町)NHK Eテレ「こころの時代」影絵演出(20)ほかを制作。音楽ユニット【滯空時間】では、東南アジアツアーや細野晴臣氏のイベント出演、漫画【宇宙兄弟】とのコラボ PV などに参加。作曲家として、YAMAHA、subway、softbank他CMに楽曲提供。

川村亘平齋



吉田美奈子：1969年に交流を持った細野晴臣や松本隆等に影響を受け、楽曲制作を始める。間もなくシンガー・ソング・ライターとして、ライブ中心の音楽活動を開始。1973年、キャメラル・ママのサポートでLP「麗の冬」で本格的にデビュー。後、CM音楽(1985年「第3回」カンパ国際広告映画祭、銀賞受賞)制作や、他の歌手等への楽曲提供(現在までに130曲を超える)、プロデュース、アレンジを含む多岐にわたる音楽活動によるコーラス歌唱等のスタジオ・ワークも行う。2022年1月現在、オリジナル・アルバム21作品(注：通常のライブ盤・ベスト盤・シングル盤・企画盤は含まず)、内1作品は、スタジオでのライブ収録ミニアルバムDVD、1作品は、コンサートにパイプ・オルガンをフル使用した、ピアノ・トリオのライブ完全収録盤「calling」(この作品は、第23回日本プロ音楽録音賞に於いてベストパフォーマンス賞受賞)。その他、コラボ・アルバム3作品、ライブ映像収録DVD等を4作品リリース。現在の主な活動は、譚歌DUO(石井彰、金澤英明)とのカバーをメインにした公演と、森俊之とのオリジナルをメインとした公演。ジャンルを取り扱った自由自在な音楽活動は、クオリティーを保ちながらも個性を発揮する稀有なミュージシャンとして多方面から共演を熱望され、そのパフォーマンスは常に高い評価を得ている。

吉田美奈子 w 森 俊之

森 俊之：大阪出身東京在住。ピアニスト、キーボーディスト、作編曲家。80年代頃からキャリアをスタート。これまでに、吉田美奈子、大貫妙子、井上陽水、南佳孝、角松敏生、スガシカオ、小沢健二、Mr.Children、山崎まさよし、キリンジ、清水翔太、さかいゆう、オリジナル・ラブ、Sing Like Talking、佐藤竹善、宮沢和史、いきものがかり、コアラモード、椎名林檎、宇多田ヒカル、古内東子、柴田淳、中島美嘉、福原みほ(敬称略)等、あらゆるアーティストの音楽制作及びライブ等において、ピアニスト、キーボーディスト、アレンジャー、コンポーザー、サウンド・プロデューサーとして携わる。またNothing But The Funk、The Sun Paulo、C.C.King等のバンド及びユニットに参加。その活動は多岐にわたる。石井岳龍監督による映画「蜜のあわれ」「パンク侍斬られて候」の音楽を担当。ジャンルやスタイルを飛び越えた独自の音楽性、トラック・メイキングから管弦楽のスコア・ライティングまで、その振る舞の広さと個性的なサウンド・キャラクターには定評がある。

